

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(主)大町麻績インター千曲線			
事業毎の通番		19	市町村名	筑北村	箇所名(ふりがな)	筑北小学校前(ちくほくしょうがっこうまえ)		
事業概要	事業目的	(主)大町麻績インター千曲線は大町市を起点として長野自動車道麻績インターを経由し千曲市に至る主要な幹線道路である。本事業区間には、筑北村立筑北小学校や筑北村役場坂井総合支所等の公共施設が存在しているが、幅員狭小で、円滑な走行に支障が生じている状況である。特に坂井小学校においては、令和2年に村内の小学校が統合され、児童数が増加した。このため、道路改築により幅員狭小区間の解消ならびに歩道整備を行い、快適で安全な道路空間の確保を図る。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法			
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量 1,272台/日						
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2025年度(令和7年度)	費用対効果	1.9	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=170m、W=6.75(9.25)m			285,000		256,500	28,500
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少						
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進						
評価の視点	必要性	○計画交通量：1,272台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス：麻績ICへのアクセス道路、筑北村スクールバス路線 ○観光振興・物流・地域の活性化：聖高原へのアクセス道路					評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定：避難経路となる路線 ○地域指定：振興山村、過疎地域、積雪地域					評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C)：1.93 ○事業期間：3年間 ○工法等比較検討：検討あり					評価	A
	緊急性	○現道の危険性：交通安全の観点で危険性が高い ○代替道路：代替道路があるが安全性が低い ○道路環境改善：筑北村通学路交通安全プログラム要対策箇所 ○現況の車道幅員、半径、勾配：現況車道幅員5.0m					評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：積極的な取り組みがある ○地域の合意形成：合意形成が図られている ○住民との協働：該当なし ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：事後評価5-1-7(地域との協働)					評価	A
	所管課の意見	本事業区間には筑北村立筑北小学校や筑北村役場坂井総合支所等が存在するが、幅員狭小で円滑な走行に支障が生じている状況であり、道路改築により幅員狭小区間を解消し、快適で安全な道路空間の確保が必要があることから、事業着手が妥当と判断する。					採択状況	総合評価
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	位置図		
	平面図		
事業周辺環境	状況写真		
	標準横断面図		
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	(主)大町麻績インター千曲線は大町市を起点として長野自動車道麻績インターを経由し千曲市に至る主要な幹線道路である。本事業区間には、筑北村立筑北小学校や筑北村役場坂井総合支所等の公共施設が存在しているが、幅員狭小で、円滑な走行に支障が生じている状況である。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	主要地方道大町麻績インター千曲線整備促進期成同盟会から、毎年、建設部長へ要望がある。	
	③ 事業説明等の経緯	本事業区間の整備について、関係区への説明会(事業計画)を実施した。	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連		
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO2排出量低減に寄与する。	
	⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	交通の円滑化が図られ、物流の活性化と地域活性化が期待される。計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。	
	⑦ その他		
事後・再評価からのフィードバック	事後評価5-1-7(地域との協働)整備のあり方について地元区と検討を重ねている		事業代表地点の緯度経度
		北緯:N 36° 26' 57" 46	
		東経:E 138° 04' 02" 26	

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(一)小島信濃木崎(停)線			
事業毎の通番		20	市町村名	大田市	箇所名(ふりがな)	稲尾(いなお)		
事業概要	事業目的	本路線は、大田市稲尾地区と大田市美麻地区を結ぶ生活道路であるとともに、国道147号、主要地方道長野大町線、一般県道美麻八坂線を東西に連絡する路線である。 本事業区間は、その路線の未改良区間であり、幅員が狭く、特に積雪時は大変危険で円滑な走行に支障が生じており、地元からも拡幅改良の要望が強い。 このため、道路改築により幅員狭小区間を解消し、快適で安全な道路空間の形成を図る。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法			
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量: 478台/日						
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2028年度(令和10年度)	費用対効果	1.1	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=300m、W=5.5(7.0)m			200,000		180,000	20,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少 災害に強い道路ネットワーク						
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進						
評価の視点	必要性	○計画交通量 : 478台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス : 稲尾駅へのアクセス路線 ○観光振興・物流・地域の活性化 : 居谷里湿原・木崎湖へのアクセス道路					評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定 : 該当なし ○地域指定 : 過疎地域、北アルプス連携自立圏					評価	B
	効率性	○費用便益比(B/C) : 1.14 ○事業期間 : 6年間 ○工法等比較検討 : 検討あり					評価	A
	緊急性	○現道の危険性 : 交通安全の観点で危険性が高い ○代替道路 : 代替道路がない(30分以上の迂回を伴う) ○道路環境改善 : 危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 曲線部の拡幅なし					評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者以外にも周知 ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 該当なし ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 5-5-11(情報発信)					評価	A
所管課の意見	本路線は地域の生活道路であるが、当該区間は幅員が狭く特に積雪時は大変危険で円滑な走行に支障が生じているため、道路改築により幅員狭小区間を解消し、快適で安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。					採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表	位置図	標準横断面図		
	状況写真			
平面図				
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、大田市稲尾地区と大田市美麻地区を結ぶ生活道路であるとともに、国道147号、主要地方道長野大町線、一般県道美麻八坂線を東西に連絡する路線である。		
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、十分な幅員が確保されておらず円滑な走行に支障が生じており、地元からも拡幅改良の要望が強い。		
	③ 事業説明等の経緯	地元からも拡幅改良の要望が強く、H29.6.9開催の地元説明会で事業の理解は得られている。		
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連			
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO2排出量低減に寄与する。		
	⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与する。 計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。		
	⑦ その他			
事後・再評価からのフィードバック	事後評価 5-5-11(情報発信) 道路の必要性をPRする		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 33' 35" 東経:E 137° 51' 37"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(一)上生坂信濃松川(停)線			
事業毎の通番		21	市町村名	生坂村～池田町	箇所名(ふりがな)	袖山～広津(そでやま～ひろつ)		
事業概要	事業目的	本路線は、東筑摩郡生坂村を起点として北安曇郡池田町を經由し、北安曇郡松川村に至る道路で、生坂村役場、池田町役場、あづみ病院へのアクセス道路であり、一部が二次緊急輸送路である。 本事業区間は、幅員狭小で線形不良によりすれ違いが困難であり、円滑な走行に支障が生じている状況である。 このため、道路改築により幅員狭小及び線形不良を解消し、快適で安全な道路空間の確保を図る。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保 (生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法			
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量: 598台/日						
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2027年度(令和9年度)	費用対効果	1.2	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=60m、W=5.5(7.0)m			180,000		162,000	18,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少 災害に強い道路ネットワーク						
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進						
評価の視点	必要性	○計画交通量 : 598台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス : 池田町営バス路線(池坂線) ○観光振興・物流・地域の活性化 : やまなみ荘へ通じる道路					評価 A	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定 : 該当なし ○地域指定 : 積雪地域、北アルプス連携自立圏					評価 B	
	効率性	○費用便益比(B/C) : 1.23 ○事業期間 : 5年間 ○工法等比較検討 : 検討あり					評価 A	
	緊急性	○現道の危険性 : 施設の健全度の観点で危険性が高い ○代替道路 : 代替道路がない(30分以上の迂回を伴う) ○道路環境改善 : 危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 曲線部の拡幅なし					評価 A	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 積極的な取り組みがある(県道上生坂信濃松川停車場線整備期成同盟会) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 該当なし ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 5-5-11(情報発信)					評価 B	
	所管課の意見	本事業区間は幅員狭小で線形不良によりすれ違いが困難であり円滑な走行に支障が生じているため、道路改築により幅員狭小及び線形不良を解消し、快適で安全な道路空間を確保を要することから、事業着手が妥当と判断する。				採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	位置図	平面図	
			
事業概要説明図表	状況写真		
			
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、東筑摩郡生坂村を起点とし、北安曇郡池田町を經由し、松川村へ至る路線であり、あづみ病院へのアクセス道路となっている。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、幅員狭小で線形不良により円滑な走行に支障が生じており、地元からも拡幅改良の要望が強く、県道上生坂信濃松川停車場線整備期成同盟会から要望がある。	
	③ 事業説明等の経緯	地元から拡幅改良の要望が強く、地元地区、地権者へは回覧、郵送により事業着手に係る周知を行っている(R4.6実施)。	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連		
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO ₂ 排出量低減に寄与する。	
	⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与する。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。	
	⑦ その他		
事後・再評価からのフィードバック	事後評価 5-5-11(情報発信) 道路の必要性をPRする	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 25' 57" 56 東経:E 137° 54' 30" 43

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(一)上生坂信濃松川(停)線			
事業毎の通番		22	市町村名	池田町	箇所名(ふりがな)	相道寺(あいどうじ)		
事業概要	事業目的	本路線は池田町と生坂村を結ぶ重要路線である。本事業区間は、幅員が狭く、交互交通に支障が出る状況であり、歩道も未整備であるが、近隣に住宅団地ができたことにより大型車や住民の交通量が増え、危険性が増している。このため、道路改築により幅員狭小区間の解消ならびに歩道整備を行い、快適で安全な道路空間の確保を図る。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法			
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量: 598台/日						
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2028年度(令和10年度)	費用対効果	1.1	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=420m、W=5.5(9.25)m			200,000		180,000	20,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少 災害に強い道路ネットワーク					
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進					
	評価の視点	必要性	○計画交通量: 598台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス: 信濃松川駅、北アルプス医療センターあづみ病院へのアクセス路線 ○交通結節点・主要施設アクセス: 池田町営バス池坂線、池田町営町内巡回線 ○観光振興・物流・地域の活性化: 山清寺、花とハーブの里信州池田、安曇野ちひろ公園等へのアクセス道路					評価
重要性		○関連計画、重点施策との整合: 信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定: 避難経路となる路線 ○地域指定: 積雪地域、北アルプス連携自立圏					評価	A
効率性		○費用便益比(B/C): 1.13 ○事業期間: 6年間 ○工法等比較検討: 検討あり					評価	A
緊急性		○現道の危険性: 交通安全の観点で危険性が高い ○代替道路: 代替道路があるが安全性が低い ○道路環境改善: 危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配: 曲線部の拡幅なし					評価	A
計画熟度		○事業情報の共有: 関係者以外にも周知 ○地域の取り組み: 積極的な取り組みがある(県道上生坂信濃松川停車場線整備期成同盟会) ○地域の合意形成: 合意形成が図られている ○住民との協働: 該当なし ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック: 事後評価 5-5-11(情報発信)					評価	A
所管課の意見	本事業区間は幅員が狭く交互交通に支障が出ており歩道も未整備であるため、道路改築により幅員狭小区間の解消と歩道整備を行い、快適で安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。				採択状況	総合評価		
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手		

事業概要説明図表	位置図	標準横断面	状況写真
	平面図		
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、松川村と生坂村を結ぶ重要路線であり、沿線住民の生活道路であるとともに、国道19号、国道147号、主要地方道明科大町線を東西に連絡する路線である。また、北アルプス医療センターあづみ病院へアクセス道路である。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、十分な幅員が確保されておらず円滑な走行に支障が生じており、地元からも拡幅改良の要望が強く、県道上生坂信濃松川停車場線整備期成同盟会から要望がある。	
	③ 事業説明等の経緯	地元からも拡幅改良の要望が強く、平成30年度から令和元年度には地元説明会及び自治会長説明会を開催し事業について説明を実施した。	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連		
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO ₂ 排出量低減に寄与する。	
	⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与する。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。	
	⑦ その他		
事後・再評価からのフィードバック	事後評価 5-5-11(情報発信) 道路の必要性をPRする	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 25' 20" 東経:E 137° 53' 28"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(一)奉納中土(停)線			
事業毎の通番		23	市町村名	小谷村	箇所名(ふりがな)	奉納～犬川(曾田工区) (ぶのう～いぬかわ(そだこう))		
事業概要	事業目的	本路線は、小谷村奉納地区へ続く唯一の路線であり、奉納温泉へと続く観光路線でもある。本事業区間は、幅員が狭いためずれ違いが起きず、円滑な走行に支障が生じている状況である。このため、道路改築により幅員狭小区間を解消し、快適で安全な道路空間の確保を図る。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保 (生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法			
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量: 580台/日						
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2028年度(令和10年度)	費用対効果	1.0	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=110m、W=4.0(6.0)m			150,000		135,000	15,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少 災害に強い道路ネットワーク					
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進					
	評価の視点	必要性	○計画交通量 : 580台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス : バス路線 ○観光振興・物流・地域の活性化 : 奉納温泉へのアクセス道路					評価
重要性		○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定 : 避難経路となる路線である ○地域指定 : 振興山村、過疎地域、特別豪雪地帯、北アルプス連携自立圏					評価	A
効率性		○費用便益比(B/C) : 1.00 ○事業期間 : 6年間 ○工法等比較検討 : 検討なし					評価	B
緊急性		○現道の危険性 : 交通安全の観点で課題がある ○代替道路 : 代替道路がない ○道路環境改善 : 危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 現況幅員3.0m					評価	A
計画熟度		○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 該当なし ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 5-5-11(情報発信)					評価	B
所管課の意見		本路線は小谷村奉納地区への唯一の路線であるが、当該区間は幅員が狭いためずれ違いが起きず円滑な走行に支障が生じており、道路改築により幅員狭小区間を解消し、快適で安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。				採択状況	総合評価	A
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○			
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	位置図		
	標準横断		
事業概要説明図表	状況写真		
	平面図(航空写真)		
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、小谷村奉納地区へ続く唯一の路線であり、奉納温泉へと続く観光路線でもある。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	本路線は奉納地区の人々にとって唯一の道路であり、迂回路がないため安全な走行に向けた要望が毎年出ている。	
	③ 事業説明等の経緯	事業範囲や計画内容についてR5.11に小谷村役場へ説明し、理解が得られている。	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連		
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO ₂ 排出量低減に寄与する。	
	⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	交通の円滑化が図られ、観光振興等に寄与する。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。	
	⑦ その他		
事後・再評価からのフィードバック	事後評価 5-5-11(情報発信)	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 48' 26" 東経:E 137° 56' 21"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(国)403号	
事業毎の通番		24	市町村名	千曲市	箇所名(ふりがな)	八幡(やわた)
事業概要	事業目的	当路線は北信地域と中信地域を結ぶ地域間連絡道路である。また、長野自動車道及び国道19号の代替路線としての機能も担っている。 本事業区間は、急勾配かつ急カーブ箇所が多く、大型車両は対向車線にはみ出して通行する状況が見受けられる。 このため、道路改良を行うことにより機能強化及び安全性向上を図りたい。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保 (生活の基盤となる道路網の整備)	事業実施の根拠法令等	道路法		
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:702台/日				
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
	完成年度(見込み)	2027年度(令和9年度)	費用対効果	1.6	国庫	その他 県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=700m、W=5.5(7.0)m			200,000	180,000 20,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少				
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進				
評価の視点	必要性	○計画交通量 : 702台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス : 姨捨SIGへのアクセス道路 ○観光振興・物流・地域の活性化 : 観光地(姨捨の棚田、聖高原)へのアクセス道路			評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定 : 第1次緊急輸送路 ○地域指定 : 千曲市観光振興計画、長野地域連携中核都市圏(千曲市)			評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C) : 1.55 ○事業期間 : 5年間 ○工法等比較検討 : 検討あり			評価	A
	緊急性	○現道の危険性 : 交通安全の観点で課題がある ○代替道路 : 代替道路がない(30分以上の迂回を伴う) ○道路環境改善 : 危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 曲線半径12m			評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 積極的な取り組みがある ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 該当なし ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 5-7-11(情報発信)			評価	B
所管課の意見	本路線は地域間連絡道路であり長野自動車道及び国道19号の代替路線としての機能も担うが、当該区間は急勾配・急カーブ箇所が多く大型車両は対向車線にはみ出して通行しており、道路改良により道路機能を強化し安全性を向上する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。			採択状況	総合評価	A
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表	【位置図】		
	【大型車通行状況】		
事業周辺環境	【平面図・標準横断面】		
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	国道403号は、北信地域と中信地域を結ぶ第1次緊急輸送路に位置付けられた主要道路である。本事業区間は、千曲市中心市街地から麻績村へ向かう主要幹線道路である。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業区間は、急勾配かつ急カーブ箇所が多く、大型車両は対向車線にはみ出して通行する状況が見受けられ、すれ違いが困難となっている。このため、線形不良の解消等の道路整備が要望されている。	
	③ 事業説明等の経緯	国道403号道路整備促進期成同盟会より早期の事業化が求められており、同盟会や千曲市へ整備方針について説明している。	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連		
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	適切な曲線半径を確保することで、急ブレーキや急加速を緩和しCO ₂ 排出量低減に寄与する。	
	⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	安全で円滑な交通の確保が図られ、地域活性化が期待される。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。	
⑦ その他			
事後・再評価からのフィードバック	事後評価 5-7-11(情報発信) 事業完了時のPR活動に加え、事業期間中のPR活動を行うことで、公共事業の必要性を広く継続的にアピールする	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 29' 35" 48 東経:E 138° 4' 22" 59

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(国)406号	
事業毎の通番		25	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	豊岡～小鍋(とよおか～こなべ)
事業概要	事業目的	本路線は、大町市から群馬県高崎市に至る広域幹線道路として、日常生活や社会経済活動を支え、また多様な観光資源を生かす地域の活性化に重要な役割を果たしており、長野県第2次緊急輸送路となっている。 本事業区間は、局所的に幅員が狭く、車輛(特に大型車)の通行に支障をきたしており、交通の難所となっている。 このため、道路改築により幅員狭小区間を解消し、快適で安全な道路空間を確保したい。				
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法	
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン				
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:1,988台/日				
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)
	完成年度(見込み)	2026年度(令和8年度)	費用対効果	1.1	国庫	その他 県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=150m、W=6.5(7.5)m			100,000	90,000 10,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少			
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進			
	評価の視点	必要性	○計画交通量：1,988台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス：信州大学教育学部、長野商業高校、西部中学校、加茂小学校、加茂保育園へのアクセス道路 長野市街と戸隠・鬼無里方面を結ぶバス路線 ○観光振興・物流・地域の活性化：鬼無里、戸隠、白馬へ通じる道路			評価
重要性		○関連計画、重点施策との整合：信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定：長野県第2次緊急輸送路 ○地域指定：長野地域連携中枢都市圏(長野市)、豪雪地帯			評価	A
効率性		○費用便益比(B/C)：1.06 ○事業期間：4年間 ○工法等比較検討：検討なし			評価	A
緊急性		○現道の危険性：交通安全の観点で課題がある ○代替道路：代替道路があるが安全性が低い ○道路環境改善：危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配：最小車道幅員4.5m			評価	B
計画熟度		○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：積極的な取り組みがある(国道406号古宮・小鍋間改良促進整備期成同盟会) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働：住民独自の取り組みがある(地元との現地調査を実施) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：事後評価5-1-7(地域との協働)			評価	B
所管課の意見	本路線は広域幹線道路として日常生活や社会経済活動を支えているが、局所的に幅員が狭く車輛(特に大型車)の通行に支障をきたしているため、道路改築により幅員狭小区間を解消し、快適で安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。		採択状況	総合評価		
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。		○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表	位置図			
	平面図・状況写真			
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	国道406号は大町市から群馬県高崎市に至る広域幹線道路として、日常生活や社会経済活動を支え、また多様な観光資源を生かす地域の活性化に重要な役割を果たしている。		
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	国道406号古宮・小鍋間改良促進整備期成同盟会から、懸案箇所の改善要望が挙げられている。		
	③ 事業説明等の経緯	国道406号古宮・小鍋間改良促進整備期成同盟会の現地調査において、各箇所の計画方針を説明している。		
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連			
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	・地形改変を極力小さくすることで、自然環境等への影響に配慮する。 ・適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO ₂ 排出量低減に寄与する。		
	⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	・交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与する。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。		
	⑦ その他			
事後・再評価からのフィードバック	事後評価5-1-7(地域との協働)整備のあり方について地元区と検討を重ねている		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 40' 14.88" 東経:E 138° 6' 27.72"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(一)小川長野線				
事業毎の通番		26	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	岩草〜地藏平(いわくさ〜じょうだいら)			
事業概要	事業目的	(一)小川長野線は、小川村稲丘地区と長野市街地を結ぶ路線であり、長野市西山地域の集落を通る重要な生活道路である。また、国道19号の通行規制の際には迂回路として利用された。本事業区間は、幅員狭小であり、かつ、線形不良、急勾配であるなど、地域でもボトルネック箇所として知られており生活の支障となっている。このため、道路改築により幅員狭小区間を解消し、安全な道路空間の確保とともに本路線の利便性向上を図る。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法				
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:358台/日							
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	9年間		事業費(千円)			
	完成年度(見込み)	2031年度(令和13年度)	費用対効果	1.2		財源内訳(千円)			
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=865m W=4.0(6.0)m			400,000			360,000	40,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少							
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進							
評価の視点	必要性	○計画交通量 : 358台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス : 七二会支所及び小田切支所へのアクセス道路 ○観光振興・物流・地域の活性化 : 市街地と山間地を結ぶ地域の重要な道路						評価	B
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定 : 長野市緊急幹線道路 ○地域指定 : 長野地域連携中枢都市圏(長野市)、豪雪地帯						評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C) : 1.16 ○事業期間 : 9年間 ○工法等比較検討 : 検討あり						評価	A
	緊急性	○現道の危険性 : 交通安全の観点で課題がある ○代替道路 : 代替道路がない(30分以上の迂回を伴う) ○道路環境改善 : 危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 最小車道幅員3.5m						評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 積極的な取り組みがある(小川長野線整備期成同盟会) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民独自の取り組みがある(毎年、地元との現地調査を実施) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 5-1-7(地域との協働)						評価	B
所管課の意見	本路線は地域の重要な生活道路であり国道19号の通行規制の際には迂回路として利用されたが、当該区間は幅員狭小、線形不良等でボトルネックとなっているため、道路改築により幅員狭小等の課題を解消し、安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。						採択状況	総合評価	A
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						○		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手			

位置図

標準横断面図

平面図・状況写真

糶山工区

ひの爪工区

事業概要説明図表	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、小川村稲丘地区と長野市街地を結ぶ路線であり、長野市西山地域の集落を通る重要な生活道路である。また、国道19号の通行規制の際には迂回路として利用された。しかしながら、本事業区間は、幅員狭小であり、かつ、線形不良、急勾配であるなど、地域でもボトルネック箇所として知られており、生活の支障となっている。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	小川長野線整備期成同盟会から、毎年懸案箇所の改善要望が挙げられている。	
	③ 事業説明等の経緯	小川長野線整備期成同盟会の現地調査において、計画方針を説明している。一部計画箇所について、計画内容を関係者に説明(R4.10月)している。	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連		
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	・地形改変を極力小さくすることで、自然環境等への影響に配慮する。 ・適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO ₂ 排出量低減に寄与する。	
	⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	・交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与する。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。	
	⑦ その他		
事後・再評価からのフィードバック	事後評価 5-1-7(地域との協働)整備のあり方について地元区と検討を重ねている	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 38' 49.71" 東経:E 138° 6' 42.55"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(主)丸子信州新線		
事業毎の通番		27	市町村名	麻績村～長野市	箇所名(ふりがな)	市後沢(いちごさわ)	
事業概要	事業目的	本路線は、上田市から青木村、筑北村、麻績村を經由し長野市信州新町を結ぶ幹線道路であり、長野県第2次緊急輸送路にも指定されている。 本事業区間は、未改良で幅員が狭く、カーブでは視距が悪いなど通行に支障をきたしている。 このため、道路改築により幅員狭小区間の解消および視距を確保し、快適で安全な道路空間を確保する。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保 (生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法		
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:567台/日					
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2030年度(令和12年度)	費用対効果	1.9	国庫	その他	県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=500m W=5.5(7.0)m			300,000		270,000 30,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進					
評価の視点	必要性	○計画交通量 : 567台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス : 麻績ICへのアクセス ○観光振興・物流・地域の活性化 : 長野市(信州新町、大岡)と筑北村、麻績村を繋ぐ道路				評価 A	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定 : 長野県第2次緊急輸送路 ○地域指定 : 長野地域連携中枢都市圏(長野市)、豪雪地帯				評価 A	
	効率性	○費用便益比(B/C) : 1.86 ○事業期間 : 8年間 ○工法等比較検討 : 検討あり				評価 A	
	緊急性	○現道の危険性 : 交通安全の観点で課題がある ○代替道路 : 代替道路がない(30分以上の迂回を伴う) ○道路環境改善 : 危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 現況車道最小幅員4.0m				評価 B	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 積極的な取り組みがある(青木・麻績インター・新町間県道整備促進期成同盟会) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 該当なし ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 5-1-7(地域との協働)				評価 B	
所管課の意見	本事業区間は未改良で幅員が狭くカーブでは視距が悪いなど通行に支障をきたしているため、道路改築により幅員狭小区間の解消と視距を確保し、快適で安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。				採択状況 ○	総合評価 A	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手		

位置図	航空写真		
状況写真			
		標準横断面図	
至 長野市信州新町			
事業概要説明図表	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、上田市から青木村、筑北村、麻績村を經由し長野市信州新町を結ぶ幹線道路であり、長野県第2次緊急輸送路にも指定されている。しかし、本事業区間は、未改良で幅員が狭く、カーブで視距が悪いなど通行に支障をきたしている。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	青木・麻績インター・新町間県道整備促進期成同盟会から、毎年、懸案箇所の改善要望が挙げられている。	
	③ 事業説明等の経緯	毎年、懸案箇所の改善要望が挙げられており、事業の理解は得られている。毎年開催される期成同盟会総会にて、事業の予定等を説明している。	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連		
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	・地形改変を極力小さくすることで、自然環境等への影響に配慮する。 ・適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO ₂ 排出量低減に寄与する。	
	⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	・交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与する。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。	
	⑦ その他		
事後・再評価からのフィードバック	事後評価 5-1-7(地域との協働) 整備のあり方について地元区と検討を重ねている		事業代表地点の緯度経度 北緯:N 36° 28' 28.3" 東経:E 137° 59' 41.47"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(一)古屋敷境ノ沢線				
事業毎の通番		28	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	大柿～梅木橋南(おおがき～うめきばしみなみ)			
事業概要	事業目的	本路線は、(一)小川長野線と(主)長野大町線を結ぶ路線であり、地域の重要な生活道路となっている。本事業区間は、幅員が狭く、急カーブのため視距が悪く、通行に支障をきたしている。このため、道路改築により幅員狭小区間の解消及び視距を確保し、生活の利便性向上及び交通の安全確保を図りたい。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法				
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:265台/日							
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	8年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	2030年度(令和12年度)	費用対効果	1.3	国庫	その他	県債	一般財源	
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=300m W=4.0(6.0)m			200,000		180,000	20,000	
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少						
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進						
	評価の視点	必要性	○計画交通量 : 265台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス : 中条支所へ通じる道路 ○観光振興・物流・地域の活性化 : 市街地と山間部を結ぶ地域の重要な道路					評価	B
重要性		○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定 : 避難経路となる路線 ○地域指定 : 長野地域連携中枢都市圏(長野市)、積雪地域					評価	A	
効率性		○費用便益比(B/C) : 1.29 ○事業期間 : 8年間 ○工法等比較検討 : 検討あり					評価	A	
緊急性		○現道の危険性 : 交通安全の観点で課題がある ○代替道路 : 代替道路がない(30分以上の迂回を伴う) ○道路環境改善 : 危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 現況車道最小幅員3.5m					評価	A	
計画熟度		○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民独自の取り組みがある(毎年、地元との現地調査を実施) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 5-1-7(地域との協働)					評価	A	
所管課の意見	本路線は地域の重要な生活道路であるが、当該区間は幅員が狭く急カーブのため視距が悪く通行に支障をきたしているため、道路改築により幅員狭小区間の解消と視距を確保し、快適で安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。					採択状況	総合評価		
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手			

事業概要説明図表	位置図			
	平面図			
状況写真	大垣工区 L=100m			
	梅木橋南工区 L=200m			
	標準横断面図			
事業周辺環境	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、(一)小川長野線と(主)長野大町線を結ぶ路線であり、地域の重要な生活道路となっている。しかしながら、本事業区間は、幅員が狭く、急カーブのため視距が悪く、通行に支障をきたしている。		
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	日下野地区から、毎年懸案箇所の改善要望が挙げられている。		
	③ 事業説明等の経緯	毎年、懸案箇所の改善要望が挙げられており、事業の理解は得られており、地元説明会(地権者)により事業予定について説明している。		
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連			
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	・地形改変を極力小さくすることで、自然環境等への影響に配慮する。 ・適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO ₂ 排出量低減に寄与する。		
	⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	・交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与する。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。		
	⑦ その他			
事後・再評価からのフィードバック	事後評価 5-1-7(地域との協働) 整備のあり方について地元区と検討を重ねている		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 36' 53.5" 東経:E 138° 2' 45.13"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(主)長野大町線		
事業毎の通番		29	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	笹平(ささだいら)	
事業概要	事業目的	(主)長野大町線は、長野市と大町市を結ぶ幹線道路であり地域の生活道路ともなっている。また、白馬長野有料道路を避けるため、大型車等の抜け道として使用されている実態があり多くの大型車両が通行している。本事業区間は、急カーブで幅員が狭いため大型車通行時は車道からはみ出しながら走行する場面が多々見られ、危険な状況となっている。このため、道路改築により必要な幅員を確保し、道路利用者の安全性の向上を図りたい。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法		
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量: 5,782台/日					
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2028年度(令和10年度)	費用対効果	1.1	国庫	その他	県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=200m W=6.0(9.75)m			200,000		180,000 20,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進					
評価の視点	必要性	○計画交通量 : 5,782台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス : 中条支所、中条小学校、長野市国保中条診療所へのアクセス道路アルピコバス高府線・新町大原橋線 ○観光振興・物流・地域の活性化 : 白馬～長野間を繋ぐ道路				評価 A	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定 : 長野県第2次緊急輸送路 ○地域指定 : 長野地域連携中枢都市圏(長野市)、積雪地域				評価 A	
	効率性	○費用便益比(B/C) : 1.05 ○事業期間 : 6年間 ○工法等比較検討 : 検討あり				評価 A	
	緊急性	○現道の危険性 : 交通安全の観点で課題がある ○代替道路 : 国道19号が遮断された際に代替機能を担う ○道路環境改善 : 危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 最小車道幅5.2m				評価 B	
	計画熟度	○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 協力的である ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民独自の取り組みがある(地元区による草刈り) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 5-1-7(地域との協働)				評価 B	
	所管課の意見	本路線は長野市と大町市を結ぶ幹線道路で地域の生活道路でもあるが、当該区間は急カーブで幅員が狭いため大型車が車道からはみ出して走行する場面が多々見られ危険な状況であるため、道路改築により安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。				採択状況 総合評価 A	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手	

事業概要説明図表	位置図	標準横断面図		
	平面図	状況写真		
	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景		当路線は、長野市と大町市を結ぶ幹線道路であり地域の生活道路ともなっている。また、白馬長野有料道路を避けるため、大型車等の抜け道として使用されている実態があり多くの大型車両が通行している。しかしながら、本事業区間は、急カーブで幅員が狭いため大型車通行時は車道からはみ出しながら走行する場面が多々見られ、危険な状況となっている。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり		七二会地区から、毎年懸案箇所の改善要望が挙げられている。	
③ 事業説明等の経緯		七二会地区の現地調査において、計画方針を説明している。計画内容を関係区役員に説明(R4.10月)している。		
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連				
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮		・地形改変を極力小さくすることで、自然環境等への影響に配慮する。 ・適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO ₂ 排出量低減に寄与する。		
⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮		・交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与する。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。		
⑦ その他				
事後・再評価からのフィードバック		事後評価 5-1-7(地域との協働)整備のあり方について地元区と検討を重ねている	事業代表地点の緯度経度 北緯: N 36° 36' 32.4" 東経: E 138° 4' 20.64"	

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(主)信濃信州新線		
事業毎の通番	30	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	中区(なかく)		
事業目的	本路線は、上水内郡信濃町から長野市鬼無里、上水内郡小川村を通り長野市信州新町を結ぶ幹線道路で、地域の重要な生活道路であり、長野県第2次緊急輸送路に指定されている。 本事業区間は、幅員が狭く車両のすれ違いが困難であり円滑な交通に支障をきたしている。 このため、道路改築により幅員狭小区間の解消し、道路利用者の安全性、利便性制の向上を図る。						
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)	事業実施の根拠法令等	道路法				
関連する事業、計画等	信州みちビジョン						
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:609台/日						
着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
完成年度(見込み)	2025年度(令和7年度)	費用対効果	1.0	国庫	その他	県債 一般財源	
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=280m W=5.5(7.0)m			180,000		162,000 18,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進					
評価の視点	必要性	○計画交通量: 609台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス: 鬼無里支所へのアクセス道路 ○観光振興・物流・地域の活性化: 国道406号へ接続し、長野市への交通の確保をしている。				評価	A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合: 信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定: 長野県第2次緊急輸送路 ○地域指定: 長野地域連携中枢都市圏(長野市)、豪雪地帯				評価	A
	効率性	○費用便益比(B/C): 1.01 ○事業期間: 3年間 ○工法等比較検討: 検討あり				評価	A
	緊急性	○現道の危険性: 交通安全の観点で課題がある ○代替道路: 代替道路がない(30分以上の迂回を伴う) ○道路環境改善: 危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配: 現況車道幅員4.0m				評価	B
	計画熟度	○事業情報の共有: 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み: 積極的な取り組みがある(巖橋小川村境間改良促進期成同盟会) ○地域の合意形成: 合意形成が図られている ○住民との協働: 住民独自の取り組みがある(毎年、地元との現地調査を実施) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック: 事後評価 5-1-7(地域との協働)				評価	A
所管課の意見	本路線は地域の重要な生活道路で長野県第2次緊急輸送路に指定されているが、当該区間は幅員が狭く車両のすれ違いが困難であり円滑な交通に支障をきたしているため、道路改築により幅員狭小区間の解消し、安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。			採択状況	総合評価		
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。			○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手		

位置図

事業概要説明図表

平面図・状況写真

標準横断面図

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、上水内郡信濃町から長野市鬼無里、上水内郡小川村を通り長野市信州新町を結ぶ幹線道路で、地域の重要な生活道路であり、長野県第2次緊急輸送路に指定されている。本事業区間は、幅員が狭く車両のすれ違いが困難であり円滑な交通に支障をきたしている。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	巖橋小川村境間改良促進期成同盟会から、毎年、懸案箇所の改善要望が挙げられている。
③ 事業説明等の経緯	(主)信濃信州新線 巖橋小川村境間改良促進期成同盟会の現地調査において、各箇所計画方針を説明している。本事業区間について沿線住民への事業説明を実施している。
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	・地形改変を極力小さくすることで、自然環境等への影響に配慮する。 ・適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO ₂ 排出量低減に寄与する。
⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	・交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与する。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。
⑦ その他	
事後・再評価からのフィードバック	事後評価 5-1-7(地域との協働) 整備のあり方について地元区と検討を重ねている

事業代表地点の緯度経度

北緯:N 36° 40' 44.44"
 東経:E 138° 0' 1.6"

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(主)信濃信州新線	
事業毎の通番		31	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	本村(ほんそん)
事業目的	(主)信濃信州新線は、上水内郡信濃町から長野市鬼無里、上水内郡小川村を通り長野市信州新町を結ぶ幹線道路であり、長野県第2次緊急輸送路に指定されている。 本事業区間は、小川村の(主)長野大町線と長野市信州新町の国道19号を結ぶ地域の重要な生活道路となっており、信州新町にある新町病院への重要なアクセス道路であるが、幅員狭小で線形不良のため円滑な通行に支障をきたしている。 このため、道路改築により幅員狭小区間の解消し、交通の安全確保及び生活の利便性向上を図る。					
しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保 (生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法		
関連する事業、計画等	信州みちビジョン					
保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:1,179台/日					
着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
完成年度(見込み)	2028年度(令和10年度)	費用対効果	1.1	国庫	その他	県債 一般財源
全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=400m W=5.5(7.0)m			400,000		360,000 40,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少				
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進				
評価の視点	必要性	○計画交通量：1,179台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス：長野市営バス路線、福祉施設、新町支所、厚生連新町病院へのアクセス道路 ○観光振興・物流・地域の活性化：国道19号を通じて松本市街地や長野市街地へアクセスする道路				評価 A
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定：長野市緊急幹線道路 ○地域指定：長野地域連携中枢都市圏(長野市)、豪雪地帯				評価 A
	効率性	○費用便益比(B/C)：1.13 ○事業期間：6年間 ○工法等比較検討：検討あり				評価 A
	緊急性	○現道の危険性：交通安全の観点で課題がある ○代替道路：国道19号が遮断された際に代替機能を担う ○道路環境改善：危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配：最小車道幅員4.9m				評価 B
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：積極的な取り組みがある(信濃信州新線改良促進期同盟会) ○地域の合意形成：合意形成が図られている ○住民との協働：住民独自の取り組みがある(毎年、地元との現地調査を実施) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：事後評価5-1-7(地域との協働)				評価 A
所管課の意見	本事業区間は地域の重要な生活道路で病院等への重要なアクセス道路となっているが、幅員狭小で線形不良のため円滑な通行に支障をきたしているため、道路改築により幅員狭小区間の解消し、安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。				採択状況 ○	総合評価 A
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	—	評価の決定	事業着手	

位置図

状況写真

至 国道19号

標準横断面図

7.0m
0.75 5.5 0.75
2.75 2.75

平面図

至 国道19号 至 小川村

至 小川村 本村工区 L=200m W=5.5(7.0)m

至 国道19号 笠子工区 L=200m W=5.5(7.0)m

事業概要説明図表

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、上水内郡信濃町から長野市鬼無里、上水内郡小川村を通り長野市信州新町を結ぶ幹線道路であり、長野県第2次緊急輸送路に指定されている。本事業区間は、小川村の(主)長野大町線と長野市信州新町の国道19号を結ぶ地域の重要な生活道路となっており、信州新町にある新町病院への重要なアクセス道路であるが、幅員狭小で線形不良のため円滑な通行に支障をきたしている。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	信濃信州新線改良促進同盟会より、毎年強い要望がされている。
③ 事業説明等の経緯	毎年、期成同盟会時に現地調査を実施の上、事業スケジュールを説明している。
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	・盛土へのコンクリート構造物は必要最小限に抑えるなど、自然環境等への影響に配慮する。 ・適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO2排出量低減に寄与する。
⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	・交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与する。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。
⑦ その他	

事業周辺環境

事後・再評価からのフィードバック	事後評価5-1-7(地域との協働)整備のあり方について地元区と検討を重ねている	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 35' 6.22" 東経:E 137° 59' 49.24"
------------------	---	-------------	--

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(主)信濃信州新線				
事業毎の通番		32	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	鬼無里(きなき)			
事業概要	事業目的	本路線は、上水内郡信濃町から長野市鬼無里、上水内郡小川村を通り長野市信州新町を結ぶ幹線道路で、地域の重要な生活道路であり、長野県第2次緊急輸送路に指定されている。本事業区間は、幅員が狭く車両のすれ違いが困難であり円滑な交通に支障をきたしている。このため、道路改築により幅員狭小区間の解消し、道路利用者の安全性、利便性制の向上を図る。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法				
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:1,016台/日							
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	6年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	2028年度(令和10年度)	費用対効果	1.0	国庫	その他	県債	一般財源	
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=280m W=5.5(7.0)m			350,000		315,000	35,000	
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少						
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進						
	評価の視点	必要性	○計画交通量 : 1,016台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス : 長野市営バス路線 ○観光振興・物流・地域の活性化 : 国道406号へ接続し、長野市への交通の確保をしている。						評価 A
重要性		○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定 : 長野県第2次緊急輸送路 ○地域指定 : 長野地域連携中枢都市圏(長野市)、豪雪地帯						評価 A	
効率性		○費用便益比(B/C) : 1.02 ○事業期間 : 6年間 ○工法等比較検討 : 検討あり						評価 A	
緊急性		○現道の危険性 : 交通安全の観点で課題がある ○代替道路 : 代替道路があるが安全性が低い ○道路環境改善 : 危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 現況車道幅員4.0m						評価 B	
計画熟度		○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 積極的な取り組みがある(鬼無里小川流域地域期成同盟会) ○地域の合意形成 : 合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民独自の取り組みがある(毎年、地元との現地調査を実施) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 5-1-7(地域との協働)						評価 A	
所管課の意見	本路線は地域の重要な生活道路で長野県第2次緊急輸送路に指定されているが、当該区間は幅員が狭く車両のすれ違いが困難であり円滑な交通に支障をきたしているため、道路改築により幅員狭小区間の解消し、安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。					採択状況	総合評価		
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手			

位置図	事業箇所 L=280m W=5.5(7.0)m		
平面図	財又工区 L=90m W=5.5(7.0)m		
状況写真			
事業概要説明図表	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、上水内郡信濃町から長野市鬼無里、上水内郡小川村を通り長野市信州新町を結ぶ幹線道路で、地域の重要な生活道路であり、長野県第2次緊急輸送路に指定されている。本事業区間は、幅員が狭く車両のすれ違いが困難であり円滑な交通に支障をきたしている。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	鬼無里小川流域地域期成同盟会から、毎年、懸案箇所の改善要望が挙げられている。	
	③ 事業説明等の経緯	(主)信濃信州新線 鬼無里小川流域地域期成同盟会の現地調査において、各箇所の計画方針を説明している。本事業区間について、沿線住民への事業説明を実施している。	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連		
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	・地形改変を極力小さくすることで、自然環境等への影響に配慮する。 ・適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO ₂ 排出量低減に寄与する。	
	⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	・交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与する。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。	
	⑦ その他		
事後・再評価からのフィードバック	事後評価 5-1-7(地域との協働) 整備のあり方について地元区と検討を重ねている		
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 42' 10.24"		
	東経:E 138° 0' 49.41"		

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(主)長野信州新線		
事業毎の通番		33	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	札木(ふだき)	
事業概要	事業目的	(主)長野信州新線は、長野市南部の市街地と長野市信州新町を結ぶ幹線道路であり、地域の重要な生活路線となっている。本事業区間は、幅員狭小かつ曲線部が連続していることから、特に大型車や定期バスのすれ違いが困難な状況であり、円滑な通行に支障をきたしている。また、付近には信田小学校があるが、歩道が未整備であり、朝夕の通勤通学時間帯には接触事故等の危険性が高い。このため、道路改築により幅員狭小区間の解消ならびに歩道整備を行い、快適で安全な道路空間を確保したい。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法		
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:1,848台/日					
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	9年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2031年度(令和13年度)	費用対効果	1.1	国庫	その他	県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=400m W=5.5(9.25)m			300,000		270,000 30,000
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少					
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進(信更地区、信州新町、篠ノ井地区、大岡地区)					
評価の視点	必要性	○計画交通量：1,848台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス：JR篠ノ井駅、長野道更埴ICへのアクセス道路、バス路線 ○観光振興・物流・地域の活性化：篠ノ井、信州新町へのアクセス道路				評価 A	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定：避難経路となる路線(国道19号通行止の際の迂回路実績あり) ○地域指定：長野地域連携中枢都市圏(長野市)、積雪地域				評価 A	
	効率性	○費用便益比(B/C)：1.12 ○事業期間：9年間 ○工法等比較検討：検討あり				評価 A	
	緊急性	○現道の危険性：交通安全の観点で課題がある ○代替道路：代替道路があるが安全性が低い ○道路環境改善：危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配：現況幅員3.5~4.0m、曲線半径30~40m拡幅なし、縦断勾配4~6%				評価 B	
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者以外にも周知 ○地域の取り組み：積極的な取り組みがある(信更・大岡・新町間整備促進期成同盟会ほか) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働：住民独自の取り組みがある(毎年、住民との現地調査を実施) OPDCA 事後・再評価からのフィードバック：事後評価5-1-7(地域との協働)				評価 A	
	所管課の意見	本事業区間は幅員狭小で曲線部が連続しており特に大型車や定期バスのすれ違いが困難な状況で、近くに小学校もあるが歩道が未整備のため、道路改築により幅員狭小区間の解消、歩道整備を行い、快適で安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。				採択状況	総合評価
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手	

位置図

標準横断面

平面図

状況写真

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、長野市南部の市街地と長野市信州新町を結ぶ幹線道路であり、地域の重要な生活路線となっている。本事業区間は、幅員狭小かつ曲線部が連続していることから、特に大型車や定期バスのすれ違いが困難な状況であり、円滑な通行に支障をきたしている。また、付近には信田小学校があるが、歩道が未整備であり、朝夕の通勤通学時間帯には接触事故等の危険性が高い。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	「信更・大岡・新町間整備促進期成同盟会」及び「信更地区道路改良整備及び砂防促進期成同盟会」より要望活動があり、毎年期成同盟会から懸案箇所の改善要望が挙げられている。
③ 事業説明等の経緯	地元説明会を実施し、事業について理解を得ている。
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	・地形改変を極力小さくすることで、自然環境等への影響に配慮する。 ・適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO ₂ 排出量低減に寄与する。
⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	・交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与する。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。
⑦ その他	

事後・再評価からのフィードバック	事後評価5-1-7(地域との協働)整備のあり方について地元区と検討を重ねている	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 33' 53" 東経:E 138° 4' 42"
------------------	---	-------------	--------------------------------------

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(一)川口田野口篠ノ井線			
事業毎の通番		34	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	日合(にちあわせ)		
事業概要	事業目的	本路線は、長野市大岡地区と長野市篠ノ井地区を結ぶ路線であり、地域の生活道路となっている。本事業区間は、大岡地区と国道19号を結ぶ区間で、国道19号を通じて松本地域や長野市信州新町へアクセスする道路となるが、幅員狭小区間が続き安全な通行に支障をきたしており、地域からの拡幅要望も強い。このため、道路改築により幅員狭小区間を解消し、交通の円滑化を図る。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法			
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量：596台/日						
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	4年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2026年度(令和8年度)	費用対効果	1.0	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=360m W=5.5(7.0)m			455,000		409,500	45,500
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少					
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進					
	評価の視点	必要性	○計画交通量：596台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス：大岡支所・新町支所へ通じる道路、新町病院へのアクセス道路 ○観光振興・物流・地域の活性化：国道19号を通じて松本市、長野市へアクセスする道路					評価
重要性		○関連計画、重点施策との整合：信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定：長野県第2次緊急輸送路 ○地域指定：長野地域連携中核都市圏(長野市)、豪雪地帯					評価	A
効率性		○費用便益比(B/C)：1.00 ○事業期間：4年間 ○工法等比較検討：検討あり					評価	A
緊急性		○現道の危険性：交通安全の観点で課題がある ○代替道路：代替道路がない(30分以上の迂回を伴う) ○道路環境改善：危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配：現況車道最小幅員3.5m					評価	A
計画熟度		○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：積極的な取り組みがある(信更大岡新町間整備促進期成同盟会) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働：住民独自の取り組みがある(毎年、地元との現地調査を実施) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：事後評価5-1-7(地域との協働)					評価	B
所管課の意見	本事業区間は、大岡地区と国道19号を結ぶ国道19号を通じて松本地域や長野市信州新町へアクセスするが、幅員狭小区間が続き安全な通行に支障をきたしているため、道路改築により幅員狭小区間を解消し、安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。					採択状況	総合評価	
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手		

位置図	事業箇所		
状況写真			
標準横断面図			
事業概要説明図表	① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、長野市大岡地区と長野市篠ノ井地区を結ぶ路線であり、地域の生活道路となっている。本事業区間は、大岡地区と国道19号を結ぶ区間で、国道19号を通じて松本地域や長野市信州新町へアクセスする道路となるが、幅員狭小区間が続き安全な通行に支障をきたしており、地域からの拡幅要望も強い。	
	② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	信更大岡新町間整備促進期成同盟会及び地区から、毎年要望活動が行われている。	
	③ 事業説明等の経緯	毎年、整備促進期成同盟会及び地区から懸案箇所として改善要望が挙げられており、事業の理解は得られている。期成同盟会の現地調査において事業説明を実施している。	
	④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連		
	⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	・地形改変を極力小さくすることで、自然環境等への影響に配慮する。 ・適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO ₂ 排出量低減に寄与する。	
	⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	・交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与する。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。	
	⑦ その他		
事後・再評価からのフィードバック	事後評価5-1-7(地域との協働)整備のあり方について地元区と検討を重ねている		
事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 31' 43.13"		
	東経:E 137° 58' 2.67"		

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(-)信州新中条線				
事業毎の通番		35	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	粉の木(これのき)			
事業概要	事業目的	本路線は、長野市信州新町地区と長野市中条地区を結ぶ路線であり、地域の重要な生活道路となっている。本事業区間は、幅員狭小でカーブ区間のため乗用車同士のすれ違いが困難で、冬季には凍結によりスリップの危険性が高く、通行の支障となっている。このため、道路改築により幅員狭小区間を解消し、交通の円滑化を図る。							
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法				
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:323台/日							
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
	完成年度(見込み)	2027年度(令和9年度)	費用対効果	1.1		国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=140m W=6.0(8.0)m			145,000			130,500	14,500
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少						
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進						
	評価の視点	必要性	○計画交通量 : 323台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス : 中条支所・新町支所へ通じる道路、新町病院へのアクセス道路 ○観光振興・物流・地域の活性化 : 白馬大町へ通じる道路、信州新町へのアクセス道路						評価 A
重要性		○関連計画、重点施策との整合 : 信州みちビジョン ○緊急輸送道路の路線指定 : 避難経路となる路線 ○地域指定 : 長野地域連携中枢都市圏(長野市)、豪雪地帯						評価 A	
効率性		○費用便益比(B/C) : 1.11 ○事業期間 : 5年間 ○工法等比較検討 : 検討あり						評価 A	
緊急性		○現道の危険性 : 交通安全の観点で課題がある ○代替道路 : 代替道路があるが安全性が低い ○道路環境改善 : 危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配 : 現況車道最小幅員3.5m						評価 B	
計画熟度		○事業情報の共有 : 関係者を中心に周知 ○地域の取り組み : 積極的な取り組みがある(県道信州新中条線改良促進期成同盟会) ○地域の合意形成 : 事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働 : 住民独自の取り組みがある(毎年、地元との現地調査を実施) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック : 事後評価 5-1-7(地域との協働)						評価 B	
所管課の意見	本事業区間は幅員狭小でカーブ区間のため乗用車同士のすれ違いが困難で、冬季には凍結によりスリップの危険性が高く通行の支障となっているため、道路改築により幅員狭小区間を解消し、安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。						採択状況 総合評価 O A		
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。						O A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手			



位置図



平面図



状況写真



標準横断面図

事業概要説明図表

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、長野市信州新町地区と長野市中条地区を結ぶ路線であり、地域の重要な生活道路となっている。本事業区間は、幅員狭小でカーブ区間のため乗用車同士のすれ違いが困難で、冬季には凍結によりスリップの危険性が高く、通行の支障となっている。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	県道信州新中条線改良促進期成同盟会から、毎年、懸案箇所の改善要望が挙げられている。
③ 事業説明等の経緯	毎年、期成同盟会から懸案箇所として改善要望が挙げられており、事業の理解は得られている。計画説明会を地権者及び関係者に対して実施している。
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO ₂ 排出量低減に寄与する。
⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	交通の円滑化が図られ、地域間交流や観光振興等に寄与する。 計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。
⑦ その他	

事業周辺環境

事後・再評価からのフィードバック	事後評価 5-1-7(地域との協働)整備のあり方について地元区と検討を重ねている	事業代表地点の緯度経度	北緯: N 36° 36' 23.88" 東経: E 138° 1' 51.25"
------------------	--	-------------	--

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等	(主)飯山斑尾新井線		
事業毎の通番		36	市町村名	飯山市	箇所名(ふりがな)	栗ノ木坂(くりのきさか)	
事業概要	事業目的	本路線は、飯山市街地と斑尾地区を結ぶ重要な生活道路である。また、斑尾高原や斑尾高原スキー場等の観光地へ通じる観光路線であり、大型観光バスの通行や県外車の利用が多い。本事業区間は、曲線部が多いことに加えて、その曲線が急で現在の幅員内で安全に曲がり切れず、大型車の通行のみならず、一般車の安全な通行の確保も課題となっている。このため、曲線部の道路拡幅を行うことにより、安全で安心な通行を確保したい。					
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法		
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン 飯山市過疎地域持続的発展計画					
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量 1,707台/日					
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	2027年度(令和9年度)	費用対効果	1.1	(千円)	国庫	その他 県債 一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=200m、W=5.5(8.5)m			170,000		153,000 17,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少				
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進				
	評価の視点	必要性	○計画交通量：1,707台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス：JR飯山駅へのアクセス道路 ○観光振興・物流・地域の活性化：観光地へのアクセス道路(斑尾高原)				評価 A
重要性		○関連計画、重点施策との整合：信州みちビジョン、飯山市過疎地域持続的発展計画 ○緊急輸送道路の路線指定：避難経路となる路線 ○地域指定：過疎地域、特別豪雪地帯、北信地域定住自立圏				評価 A	
効率性		○費用便益比(B/C)：1.05 ○事業期間：5年間 ○工法等比較検討：検討あり				評価 A	
緊急性		○現道の危険性：交通安全の観点で課題がある ○代替道路：代替道路があるが安全性が低い ○道路環境改善：危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配：曲線半径15m				評価 B	
計画熟度		○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：積極的な取り組みがある(主要地方道飯山斑尾新井線改良促進協議会) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働：住民独自の取り組みがある(協議会との現地調査を実施) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：事後評価 5-1-7(地域との協働)				評価 B	
所管課の意見	本路線は重要な生活道路で観光路線でもあり大型観光バスの通行や県外車の利用が多いが、当該区間は急カーブが多く現在の幅員内で安全に曲がり切れず通行に支障をきたしているため、曲線部の道路拡幅により安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。				採択状況 総合評価 O A		
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。				O A		
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-	評価の決定	事業着手		

位置図

状況写真

平面図

標準横断面図

事業概要説明図表

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、飯山市街地と斑尾地区を結ぶ重要な生活道路である。また、斑尾高原や斑尾高原スキー場等の観光地へ通じる観光路線であり、大型観光バスの通行や県外車の利用が多い。しかし、当該道路の現道は、曲線部が多いことに加えて、その曲線が急で現在の幅員内で安全に曲がり切れず、大型車の通行のみならず、一般車の安全な通行の確保も課題となっている。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	曲線部が大型車の通行の支障となっているため、主要地方道飯山斑尾新井線改良促進協議会から毎年、所長要望がある。(R4.7.15)
③ 事業説明等の経緯	R4.7関係区説明へ説明し、事業計画について周知した。
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	信越観光圏の圏域内連携強化に資する道路整備である。
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO ₂ 排出量低減に寄与する。
⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	安全で円滑な交通の確保が図られ、地域活性化が期待される。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。
⑦ その他	

事業周辺環境

事後・再評価からのフィードバック	事後評価 5-1-7(地域との協働)整備のあり方について地元区と検討を重ねている	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 51' 05" 09 東経:E 138° 21' 14" 15
------------------	--	-------------	---

(様式1-2)新規評価シート

建設部 道路建設課

事業名		県単道路改築		路河川名等		(一)曾根藤ノ木線		
事業毎の通番		37	市町村名	飯山市	箇所名(ふりがな)		四ツ屋(よつや)	
事業概要	事業目的	本路線は、飯山市街地と戸狩地区を結ぶ生活道路であり、戸狩温泉、戸狩スキー場等の観光地へ通じる観光路線でもある。また、国道117号が通行止めとなった場合には、その代替路の役割も果たす路線である。しかし、本事業区間は幅員狭小で大型車のすれ違いが困難なため、円滑な交通の支障となっている。沿線には泉台小学校や保育園、デイサービスセンターがあり、歩行者の安全確保や大型車の円滑な交通の確保が求められている。このため、道路拡幅を行うことにより必要幅員を確保し、安全で安心な都市環境の形成を図りたい。						
	しあわせ信州創造プラン2.0における位置付け	3-8 生活を支える地域交通の確保(生活の基盤となる道路網の整備)		事業実施の根拠法令等		道路法		
	関連する事業、計画等	信州みちビジョン 飯山市過疎地域持続的発展計画						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量 2,059台/日						
	着手年度	2023年度(令和5年度)	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	2027年度(令和9年度)	費用対効果	1.0	国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路改築工 L=200m、W=5.5(10.25)m			150,000		135,000	15,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間の短縮、走行経費の減少					
		間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進					
	評価の視点	必要性	○計画交通量：2,059台/日 ○交通結節点・主要施設アクセス：長野電鉄バス小境線 ○観光振興・物流・地域の活性化：観光地へのアクセス道路(戸狩温泉)					評価
重要性		○関連計画、重点施策との整合：信州みちビジョン、飯山市過疎地域持続的発展計画 ○緊急輸送道路の路線指定：避難経路となる路線 ○地域指定：過疎地域、特別豪雪地帯、北信地域定住自立圏					評価	A
効率性		○費用便益比(B/C)：1.00 ○事業期間：5年間 ○工法等比較検討：検討あり					評価	A
緊急性		○現道の危険性：交通安全の観点で課題がある ○代替道路：広域道路(国道117号)が遮断された際に代替機能を担う ○道路環境改善：危険箇所や課題箇所の対策を行う ○現況の車道幅員、半径、勾配：車道幅員5.0m					評価	B
計画熟度		○事業情報の共有：関係者を中心に周知 ○地域の取り組み：積極的な取り組みがある(中部道路委員会) ○地域の合意形成：合意形成が図られている ○住民との協働：住民独自の取り組みがある(道路委員会との現地調査を実施) ○PDCA 事後・再評価からのフィードバック：事後評価 5-1-7(地域との協働)					評価	A
所管課の意見		本事業区間は幅員狭小で大型車のすれ違いが困難で、沿線には小学校等があり歩行者の安全と円滑な交通の確保が求められているため、道路改築により快適で安全な道路空間を確保する必要があることから、事業着手が妥当と判断する。					採択状況	総合評価
政策評価室の意見	所管課の意見が妥当であると判断する。					○	A	
県の評価案	事業着手	評価監視委員会意見	-		評価の決定	事業着手		

位置図

状況写真

平面図

標準横断面図

事業概要説明図表

① 事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	本路線は、飯山市街地と戸狩地区を結ぶ生活道路であり、戸狩温泉、戸狩スキー場等の観光地へ通じる観光路線でもある。また、国道117号が通行止めとなった場合には、その代替路の役割も果たす路線であることから、これまで外様地区の道路拡幅、小境地区および柳沢地区の歩道整備を整備を進めているが、幅員狭小区間が残り、安全で円滑な交通の支障となっているため、地域からの道路改良を求められている。
② 地域からの要望経緯及び地域の関わり	現道幅員が狭小で円滑な交通の支障となっているため、中部道路委員会から毎年改良の要望がある。(R4.7.27)
③ 事業説明等の経緯	R4.9関係区説明へ説明し、その後に事業計画について地域で意見集約を行った。
④ 他事業・プロジェクトとの整合、関連	信越観光圏の圏域内連携強化に資する道路整備である。
⑤ 地球温暖化への配慮、自然環境・生活環境への影響と配慮	適切な道路幅員を確保することで、燃費が向上しCO ₂ 排出量低減に寄与する。
⑥ 人口減少、少子高齢化を踏まえた地域活性化への影響と配慮	安全で円滑な交通の確保が図られ、地域活性化が期待される。 ・計画交通量には将来推計値を用い、人口減少を見据えた道路計画としている。
⑦ その他	

事業周辺環境

事後・再評価からのフィードバック	事後評価 5-1-7(地域との協働)整備のあり方について地元区と検討を重ねている	事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36° 52' 12" 59 東経:E 138° 21' 15" 89
------------------	--	-------------	---